

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

一雨ごとに木々の青葉が茂ってゆく。芽吹き頃の春の季語「山笑う」から、まさに夏の季語「山滴る」を感じる頃だ。日々過ぎす

中で、山並みを楽しむ事ができる幸せを感じる時でもある。

農作業での楽しみは、普段あまり聞かないラジオ放送だがコロナ禍により在宅時間が

増えた影響もありラジオを聞く人が増えたとの情報だ。

同志社女子「優しく・緩やかに寄り添う」言語を大切に

## 優しく・緩やかに寄り添う「言語を大切に

主食米の生産があるから大丈夫との傾向が強かったが、既に農家からは「来年度の作付けがで

る」。優しく、緩やかに寄り添う「やゆよ」のメディア」など。聴

英科学誌に発表した「休養感」。あーよく寝た「すっきりした」。睡眠から目覚めた時の

の中で「楽しむ」感覚を大切にしなければならぬだろう。

5月末、全国農業協同組合連合会(JA全農)は地方組織に6月

力も年を重ねる毎に、聞きづらいつと思う事が

気分、その感覚がいかに大切だと。寝床でいくら長く横になってい

ても、その休養感がなければ死リスクは高まる。お年寄りに傾向

が強いという。中年時代で休養感たっぷりの人

多くなってきたが、ラジオから伝わっている

国立精神・神経医療研究センター精神保健

だが、精神的な休養をいかに自然との関わり

増え強まって行くのだろう。日本は

も事実だ。国は高収入作物栽培の作付けを押し進めているが、生産者の高齢化や自然環境の厳しさなど農業経営に躊躇する条件は多

い。直面する人口減時代に、改めて定住人口の確保への論議が必須だと認識すべきだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



松川河川敷に咲くニセアカシア、香りを楽しむ人も多い